

牛久：学校周辺に見る自然

第50号 みずべ公園（ひたち野うしく小）

2016年12月1日発行

＜ 秋の終わりに、そよかぜ学級とみずべ公園を歩く ③チョウやガのなかま ＞

11/17、ひたち野うしく小そよかぜ学級の皆さんと歩いた、秋の終わりのみずべ公園。お待たせしました。今回から昆虫の冬ごしです。まずは、チョウやガのなかまから。



シラカシの葉のうらで、じっとして冬をこすウラギンシジミ。左はその拡大。

さて、上の写真はシラカシの木ですが、この葉のうらでじっとして冬をこすチョウ、ウラギンシジミが写っています。左はその拡大ですが、どこにいるでしょうか？天敵の鳥になったつもりで、見つけてみましょう。もし見つけられなければ、鳥になったあなたは飢えてしまうことになりますよ。私も授業中は目をこらして探



しても見つけられませんでした。午後、勤務後に歩いてようやく見つけました。さらにコナラの葉でも見つけましたが、これは落葉樹で冬までに葉を落としてしまうので、それまでに常緑樹の葉のうらに移動しなければなりません。

←落葉樹のコナラの葉にも、ウラギンシジミはいた。



こちらは、モンキチョウ。モンシロチョウに近いなかまですが、このチョウはさなぎでなく幼虫ようちゅうで冬をこします。

そして、びっくりしたことに、まだジャコウアゲハがいました。さなぎで冬をこし、ふつうは10月に入るとほとんど見かけなくなるのですが。

幼虫ようちゅうで冬をこすモンキチョウ(左)と、さなぎで冬をこすジャコウアゲハ(下2枚)。この時期に見るのはめずらしい。



シダレヤナギの幹みきには、樹皮じゅひとよく似た色にのガがいました。じっとしていれば、鳥などに見つかることもないでしょう。下の石のイスには、ツマアカシャチホコというガの幼虫ようちゅうやミノムシがいました。



シダレヤナギの幹みきでじっとしていたガのなかま(左上)と、下の石のイスにいたツマアカシャチホコの幼虫ようちゅう(左下)、ミノムシ(右)。



シラカシの葉にいたヒロヘリアオイラガ。

シラカシの葉には、刺されると痛いヒロヘリアオイラガの幼虫がいました。いろいろな木の葉を食べますが、みずべ公園ではシラカシやイヌシデなどでよく見つかります。もともとは中国南部やインドなど南の国のガですが、帰化して日本中どこでも見られます。



こんな所にもいました。樹木プレートとシラカシの幹の間で、幼虫とすでにまゆになったものが見つかりました。この幼虫も、まもなくまゆをつくるものと思われます。このガは幼虫だけでなくまゆにも毒針がついていますから、さわったりしないようにくれぐれも気をつけましょう。

樹木プレートのうらにいたヒロヘリアオイラガと、そのまゆ。



こんな、毛むくじらの幼虫も見つけてくれましたね。ヒトリガ科のなかまかとは思いましたが名前までは分からず自分の宿題にしました。帰ってから調べ、どうやらシロヒトリの幼虫らしいことが分かりました。公園内の植物では、スイバやギシギシ、タンポポなどの葉を食べるようです。毒はないそうですが、毛などでかぶれやすい人はさわらない方がよいでしょう。

毛むくじらのシロヒトリの幼虫。



その他、名前は分かりませんが、シダレヤナギの下の石のイスに緑色の幼虫が、そして根もと近くの木の幹には小さなミノムシがついていました。

【理科支援員：宮内】

シダレヤナギの下の石のイスにいた幼虫(左)と、木の幹のミノムシ(右)。